

れいぞうこのそこのそこ りんごのまほう
うえだ しげこ

おじいちゃん、おばあちゃんから、フルーツの詰め合わせが届きました。「何から食べようか？」自分は一番の人気フルーツだと思っていたりんごですが、えらんでもらえないまま、なんと、冷蔵庫の底の底【野菜室】に入れられてしまいました……。

ペティおばさんの台所 竹中マユミ



ミルは、おいしいものにとっても鼻がきく女の子。おにぎりの中の具も、クンクンかいで当ててしまえるくらいです。そんなミルが、おばあちゃんのおうちに引っ越すことになったのですが、どうもおばあちゃんの台所からは不思議ないい匂いがするのです。それはミルにしかかからない匂いのようで……。お料理やおかしをつくるのが上手だったおばあちゃんの思いがしみこんだ台所でおきた素敵な出会いを、あたたかくえがく絵童話です。おはなしのなかでつくるクッキーのレシピ付き。

クーちゃんとぎんがみちゃん
ふたりの春夏秋冬
北川佳奈/くらはしれい

カカオの町でくらす、板チョコレートのクーちゃんと、仲良しのぎんがみちゃん。春は散歩と贈り物、夏は海水浴、秋は落ち葉を踏みしめて踊り、冬はがらがらを引きに商店街へ。四季を通じてくり広げられる、とろけるような楽しい毎日。ほっこり温かい世界へ誘います。

子どもの教養 クイズで学ぼう季語の世界
齋藤孝

この一冊で語彙力、表現力がアップ。季語にふれて、知性や感性をみがこう!!
多くのベストセラー作品をもつ齋藤孝氏による子ども向け読み物。
「東から吹いてくる『東風(春)』は、何を知らせる風?」「昔、『お年玉(新年)』としてわたされたものは?」「かじけ猫(冬)ってどんな猫?」。さあ、答えはわかるかな? 季語が生まれた背景やその意味をうんちくたっぷりに解説する。古来、日本人が大切にしてきた季節感や自然をうやまう気持ちにも触れてみよう。
語彙力、表現力はもちろんのこと、理科や社会、美術や哲学まで幅広いジャンルにまつわる知識がクイズをとおして習得できる。俳句を学び始める小学生は、ぜひ「朝読」用にゲットしてほしい。ブームによって俳句の世界に興味を抱いた大人の読者にもおすすめの一冊。

はまでら4つのや図書館

2023.2月の新着本より



ほんのなかのドラゴン

トム・フルチャー/グレッグ・アボット/いがらし かなこ

とってもかわいいドラゴンが、ほんのなかでひをふいちゃった! たすけてあげられるかな? 本を開けば即、こどもたちが夢中になる“双方向絵本”。ふーっと息をふきかけたり、ページをパタパタしてみたり。自分でどんどんページをめくり、本の中と現実の世界を行ったりきたり。こんなにこどもが喜ぶ本、今までに見たことない! 英国発、世界的ベストセラーとなった Who's In Your Book? シリーズ。(Amazon より)



ぼくらはうまいもんフライヤーズ
岡田よしほか

フライたちが野球をしたら…食べものユーモア絵本! 「やきゅうやれへんか?」と空き地で声をかけたのは、エビフライとアジフライ。フライドポテトやコロケ、たいやきやたこやきまで続々とやってきます。さあ、フライなベ監督のもと、猛特訓開始!

不思議屋「風待ち」

西村友里/こがしわ かおり



母とけんかをして、画廊「風待ち」に家出してきた美音は、ある特殊な能力を持っていました。それは、絵の中の世界に入り込むこと。個性豊かな絵に入り込むことで母の思いに気づいていく美音。その過程で彼女の能力の秘密も明かされます。

ブレーメン通りのふたご

蓼内明子/井田千秋

悲しみに向き合い、乗り越えていくふたごの物語。
お日さまポカポカなジャズの調べ、「明るい表通りで」が流れる甘味処で出会った二組のふたご。小学生のマキとカツラ、もう一方は不思議なふたり組のおばあさん。喪失感を抱え、おたがいを支えていたマキとカツラだったが、おばあさんのふたご、まりあとえりあに関わることで、しだいに心が前に進んでいく。



雲を紡ぐ

伊吹有喜

羊毛を手仕事で染め、紡ぎ、織りあげられた「時を越える布・ホームスパン」をめぐる親子三代の「心の糸」の物語。
いじめが原因で学校に行けなくなった高校2年生・美緒の唯一の心のよりどころは、祖父母がくれた赤いホームスパンのショール。
ところが、このショールをめぐる母と口論になり、美緒は岩手県盛岡市の祖父の元へ行ってしまふ。美緒は、祖父とともに働くことで、職人たちの思いの尊さを知る。
一方、美緒が不在となった東京では、父と母の間にも離婚話が持ち上がり……。

「時代の流れに古びていくのではなく、熟成し、育っていくホームスパン。その様子が人の生き方や、家族が織りなす関係に重なり、『雲を紡ぐ』を書きました」と著者が語るように、読む人の心を優しく包んでくれる1冊。

イマジン?

有川ひろ

「朝五時。渋谷、宮益坂上」。その9文字が、良井良助の人生を劇的に変えた。飛び込んだのは映像業界。物語と現実を繋げる魔法の世界にして、ありとあらゆる困難が押し寄せるシビアな現場。だがそこにいたのは、どんなトラブルも無理難題も、情熱×想像力で解決するプロフェッショナル達だった! 有川ひろが紡ぐ、底抜けにパワフルなお仕事小説。

海が見える家 旅立ち

はらだみずき

父が遺してくれた海が見える家が台風により被災後、追い打ちをかけるようにコロナが蔓延してしまう。思うように日常生活をとりもどせない文哉は、農業の師である幸吉がビワ畑で倒れていたあの日に思いを馳せる日々を送っていた。心配する和海のすすめもあり、文哉は旅に出ることにした。向かったのは、幸吉の親友、イノシシの罫獵の達人である市蔵の暮らす集落。山に入り自然薯を掘ったり、斧で薪を割ったり、自然に抱かれて過ごすうちに、文哉は求めていた自分なりの答えを見いだしていく。そして、新たな決意を胸に抱く! 25万部突破のベストセラーシリーズ、堂々完結。

かつて直木賞も受賞した作家・津田伸一は、とある地方都市で送迎ドライバーをして糊口をしのいでいた。
以前から親しくしていた古書店の老人の訃報が届き、形見の鞆を受け取ったところ、中には数冊の絵本と古本のピーターパン、それに三千枚を超える一万円札が詰め込まれていた。
ところが、行きつけの理髪店で使った最初の一枚が偽札であったことが判明。
勤務先の社長によれば、偽札の出所を追っているのは警察ばかりでなく、一年前の雪の夜に家族三人が失踪した事件をはじめ、街で起きる騒ぎに必ず関わる裏社会の“あのひと”も目を光らせているという。

こんな小説アリなのか!
小説表現の臨界点を越えた、まさに先が読めない展開——かつてない読書体験を約束します。存分にお楽しみください。
読み進めると、謎が深まる。読み返せば、伏線がわかってくる。
上巻だけでは、この小説のおもしろさは半分も伝わりません。
急展開も待ち受ける下巻の最後の1行まで、ぜひ「鳩」の行方を見届けてください。読み返すほど、おもしろいはずです。

はい、総務部クリニック課です 藤山素心

入社7年目の松久奏己は、地味に目立たぬように仕事をしてきたはずだった。しかし、社長肝いりの新部署へ異動になり、変わり者でイケメンな医師、森琉吾と、チャラ系ホスト顔の薬剤師、眞田昇磨と働くことに! 異動初日から緊張の連続でいつもの困った症状が現れる——。
会社での困りごと対処法や、体調不良へのお役立ち情報も満載の、ちょっと元気になれる物語!

殺人の多い料理店 辻真先

盛岡のレストランで宮沢賢治の童話朗読会が開かれた。
取材に赴いた夕刊紙記者・可能克郎は奇妙な出来事に遭遇。
台本に賢治作品の贋物が紛れ込んでいたのだ。参加者を震撼させた“贋作騒動”は未解決。
ところが二か月後、参加者の一人・倉村が変死する。
朗読会に出演したタレント三木七重と参加メンバーの関係に不審を覚えた克郎は調査を進めるが……。